

## 平成25年度 第1回「宮崎県生涯学習審議会」議事録

日時：平成25年8月26日（月）

午後1時15分～午後2時50分

会場：県庁6号館 621号室

審議事項「成年期における今後の生涯学習施策の在り方について」

成年期における継続性・実効性のある生涯学習施策はどうあるべきか。

県内高等教育機関と連携し、県民の「学びの場」の充実をどう図ることができるか。

**議長** 県内高等教育機関と連携し、県民の「学びの場」の充実を、どう図ることができるかについて、様々な視点から御意見、お考えをいただきたい。

**委員** 県の施策であった県立学校開放講座の内容はどのようなものがあったか。

**事務局** 教諭の専門性や県立学校の特色を生かしたものであり、夜間の講座を実施していた。

**委員** 昨年度の親学びについては、枠組みを認めて社会教育委員が作成したものを認めればよいのか。それが答申の答えと受け止めてよいのか。

**事務局** 審議の柱の一つ目として、継続性・実効性のある施策、早速取り組めるものをとということ提案させていただいた。

**委員** 生涯学習審議会では枠組みを提示することでよいのか。社会教育委員会議との関係性はどうか。

**事務局** 生涯学習審議会は諮問し答申をいただく、社会教育委員会議は提言である。施策に反映をさせていくといったスタンスで進めている。昨年度は事務局からの提案が多かった。

**委員** 高等教育機関との連携に関して、学習内容を生かした社会参加活動とはどのようなものになるか。

**事務局** 以前は趣味的なことを学んでおられることが多かったが、今は知の循環型社会といわれる。学んだことを講師としてボランティアとして生かしていく、地域に学びを生かしていくことが挙げられる。

**委員** 人材を集めることにもつながっていくのか。他県の例があるか。

**事務局** 県民大学、県民カレッジという形で1つの枠組みの中に入れて込んで県民の学びの場として設定していくことが考えられる。

他県においては、手帳やスタンプの押印等で学習の成果を認めていき、その後指導者として活動するとさらにポイントを与えるなど学んだことを活かしていく取り組みがあ

る。

- 委員** 県内高等教育機関の講座はまとめてあるか。
- 事務局** 関係機関にリンクするようにはなっているが、各高等教育機関が実施している講座一覧としてはまとめてない。
- 委員** 高等教育機関との段階的な連携の在り方について話をしていかなければならないのではないか。
- 事務局** 大学との連携、情報交換、場の設定等取りかかりの部分について御意見をいただきたい。
- 委員** 連携を図るためにはいろいろある。テーマを絞っていかなければ深まりがないのではないか。
- 委員** 知の循環型であれば、県民全てが参加するという部分が大切になる。県民が参加できるような組織作りが必要になる。  
また、高等教育機関でなければできない現代的課題を学ぶことで、生涯学習による地域づくりにもつながる。今が絶好のチャンスではないか。
- 委員** 僻地に住む代表として、距離をどのように克服していくかがある。高千穂から九州保健福祉大学の市民講座に参加している人もいる。講座を実施する際にも、今までは個別に探して依頼をしていた。県が間に入ってもらえるようなシステムがあると大変助かる。近くに大学がない地域への生涯学習の場を構えてもらうことは大切なことである。  
そのためには、県が大学の人材を一括して把握し、情報を提供することが大切である。
- 委員** 生涯学習センターがなくても、その代替りの機能となるものがあるのではないか。離れている地域に人材、講師を派遣するということが距離の克服につながる。
- 委員** 講座についても幅が広く、専門的な分野から、地域のニーズに対応できるような講座もあり、ニーズの把握が必要である。
- 委員** アシスト企業については、県内160社いろいろな地域が登録をされているようだが、このような企業を生かしての連携講座の実施も考えられるのではないか。
- 委員** アシスト企業の活用はどの程度か。
- 事務局** 本年度は現在70件、年間100件程度である。
- 委員** 未来キッズという番組でレポーターを8名採用し、夏休み中に企業を訪問させた。  
本年度は、ぎょうざの丸岡、久保田オートパーツ、旭化成、旭有機で実施をさせていただいた。2年間で15社の協力を得た。
- 委員** 短期大学の実践例として、地域の方を対象にした講座を実施しており、30名程度の参加がある。本講の生涯学習委員会で内容を検討し、実施している。2月の公開講座は4回実施し、大学の教員の得意分野で実施している。「一緒に行ってみようよ」という

誘いも、学びのよさを他に伝えることも知の循環化ではないか。

PRをどうするのか、講座の内容、参加者のニーズの把握が必要であり、現在行っている公開講座をどのように掘り起こしていくかが大切である。

**委員** 大学の現状として、年1回4月に公開講座を実施している。それ以外に、6次産業化の講座も実施している。公開講座だけを見ているのは、県民ポータルサイトに載せて欲しいという県の意図があるのか。大学は情報は出す。どのようなレベルをとというのが、次の段階と考える。専門家を育成すること、今働いている人を働かせることが、知の循環化につながる。

**委員** 小中学校では、キャリア教育の視点で修学旅行の内容を生かしている。成人のキャリアアップについて、親の学びに限定するものではないと考えていけばよいか。

**議長** キャリア教育の視点で見ると、その学校の取組や特色によって違いが出る。一人一人の子供達の可能性に結びつけていくことが必要であると考えます。

**委員** 親の学びに焦点を当てると、どうしても母親に限定される。父親の参加は少ない。高等教育機関との連携の中では、父親の知的な好奇心を高めるようなプログラムの構築ができるのではないかと。父親は、専門的な講座に関心があり、子育てにもつながる。

**委員** 地域への派遣講座について状況を聞かせて欲しい。

**事務局** 出前講座は要望があれば検討する。交通費は負担して欲しいとお願いしている。

**委員** 積極的に要望を出すような仕組みづくりが必要であり、地域ごとの仕組み作りが必要である。

**委員** 大学は都市部にある。日南・串間の人はなかなか来られないというのが実状ではないか。大学のない地域も参加しやすい工夫が必要である。

**議長** 参加人数が多ければ大学は喜んで行く。遠いから申し訳ないという気持ちがあることも分かる。大学の取組を知ることができた。

**委員** 大学の窓口は敷居が高い。宮崎大学は地域連携センターがあるが、各大学の窓口を明確にする必要がある。

**委員** 県民が講座を選べるメニュー化（一覧化）を県でしっかりして欲しい。生涯学習講座は、ほぼ年配者であり、若い人、特に成年層が食いつくような周知をお願いしたい。

**委員** 宮崎産業経営大学は就職率は全国第8位である。受験を迎える保護者にとっては、大学の講座は大学選択をする際の、基準となり得る。県内の大学のよさを伝えることにもつながる。

**委員** 生涯学習の連携を図るためには、連絡協議会が必要だと考える。人材バンクを整備するのか、紹介だけなのか、県が修了証のような仕組みを作るとよいのでは。バーチャル

なセンターを作ることも可能ではないか。

**委員** コンソーシアム宮崎の取組も参考にしたい。